

和光市立小・中学校における 「小・中学生の家庭での役割などの調査」 に関するアンケート調査結果について

令和4年3月
和光市教育委員会

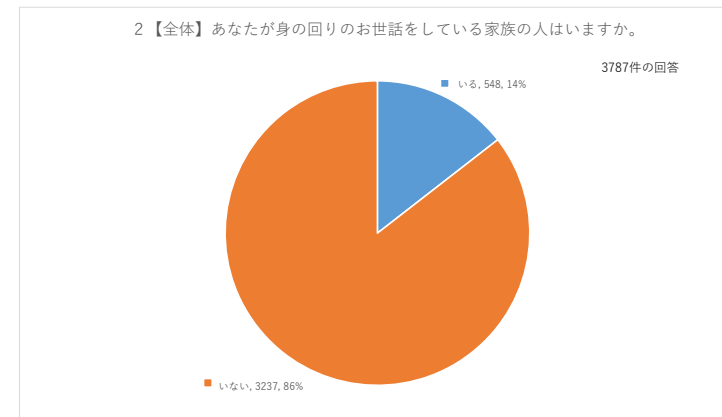
1 「小・中学生の家庭での役割などの調査」概要について

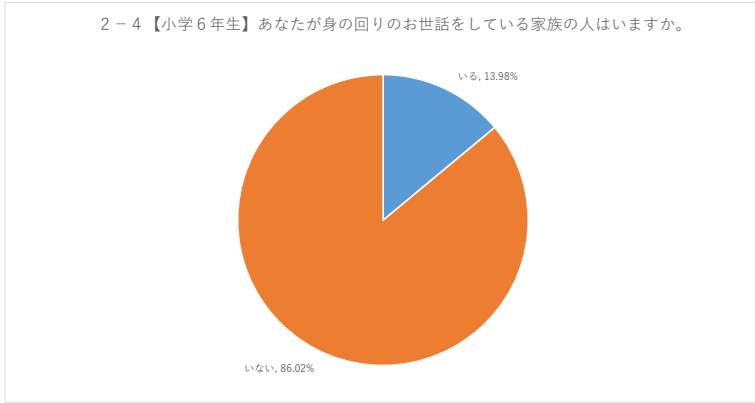
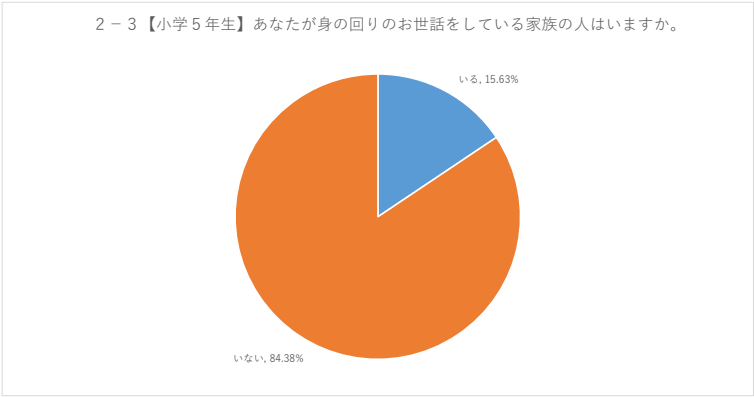
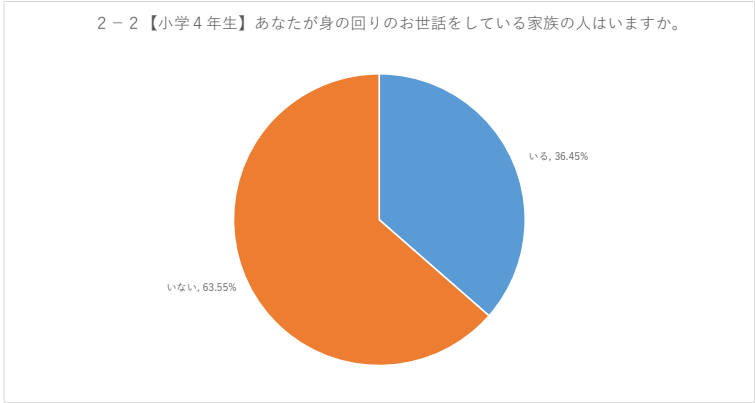
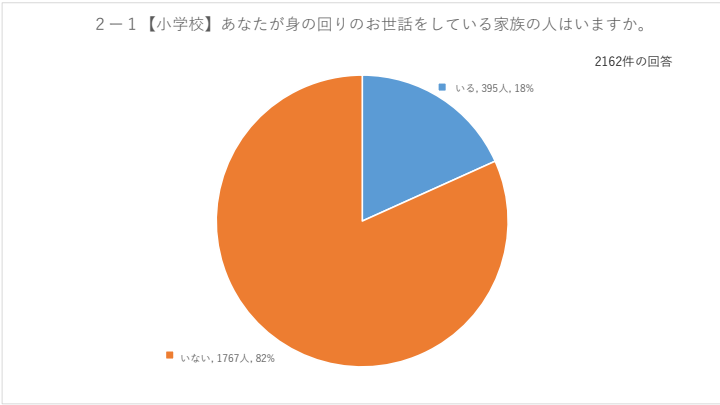
- 1 目的
市内小学校4年生～中学校3年生における「小・中学生の家庭での役割などの調査」より、ヤングケアラーと思われる児童生徒数や実態を把握し、その後のケアや支援につなげる。
- 2 調査対象
市内小学4年生～中学3年生の児童生徒 3,968人
- 3 調査方法
一人1台タブレット端末を使用し、インターネット上で回答
- 4 調査期間
令和3年11月1日～11月19日
- 5 その他
 - ・任意での回答になるため、合計が合わない場合がある。
 - ・設問によっては複数回答であるため、割合の合計が100%にならない。
 - ・集計の際、割合を四捨五入して計算しているため、割合の合計が100%にならない場合がある。

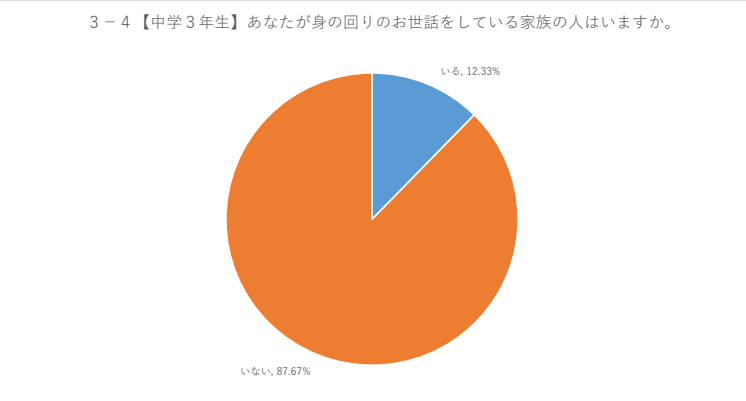
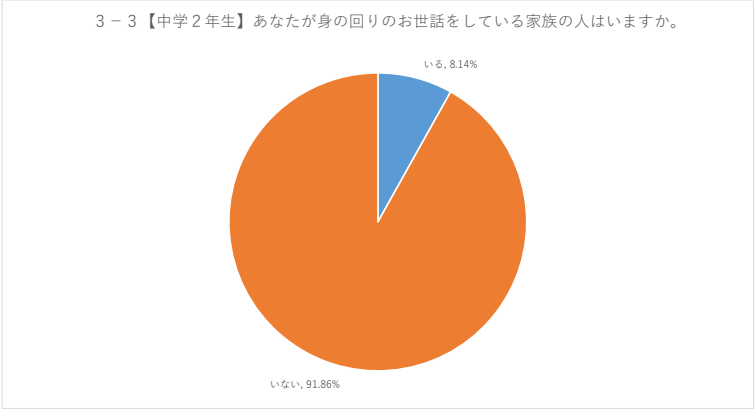
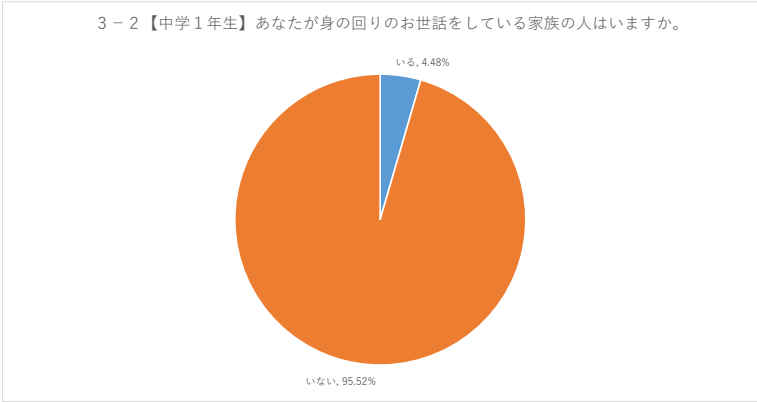
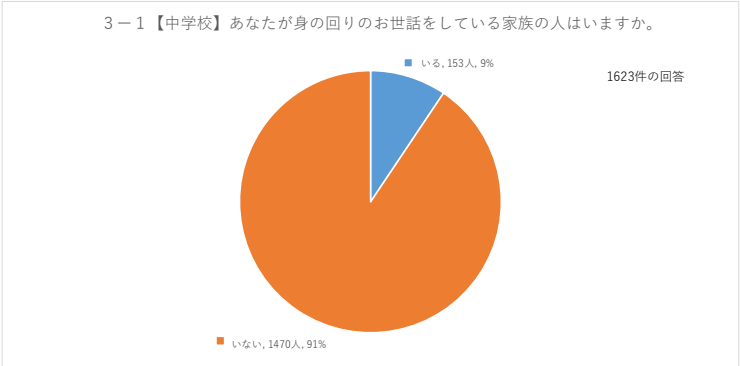
2 「小・中学生の家庭での役割などの調査」の実態調査について

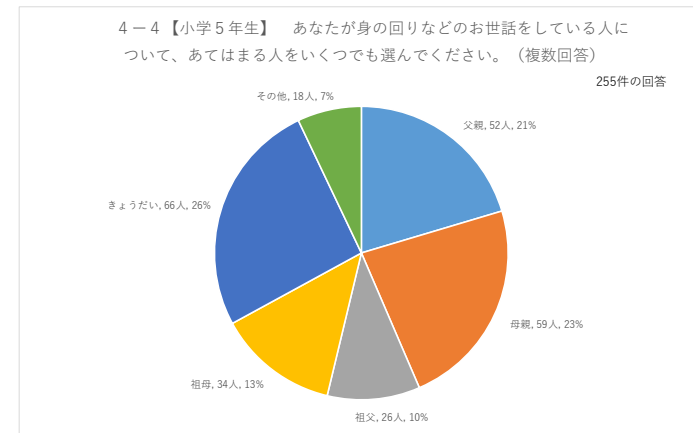
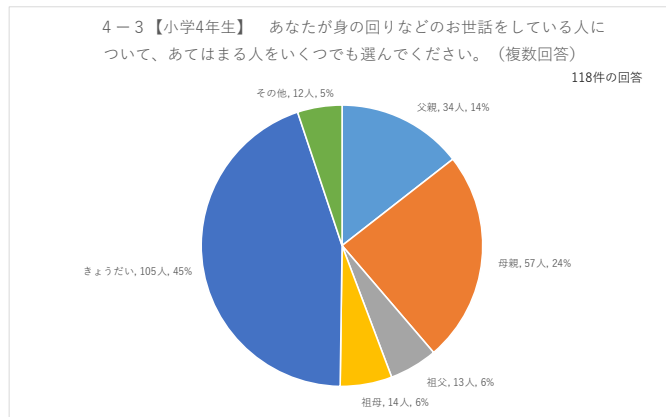
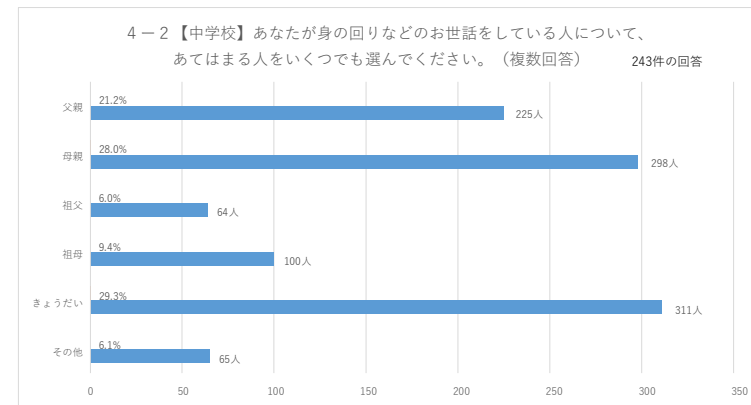
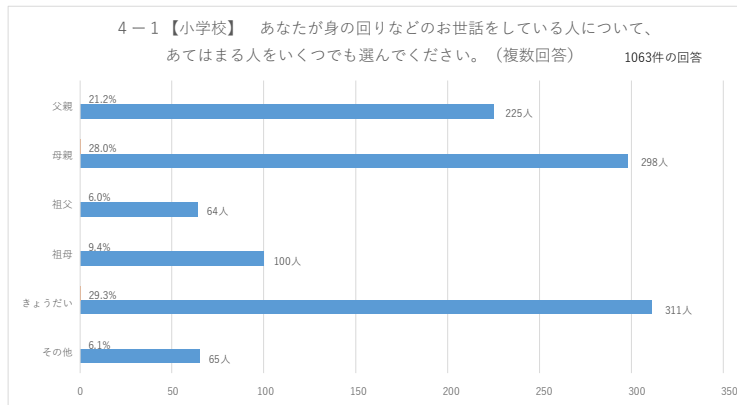
(1) 対象者数及び回答率について

	対象者数 (人)	回答数 (人)	回答率
全体	3,978	3,787	95.2%
小学4年生	757	701	92.6%
小学5年生	726	698	96.1%
小学6年生	725	673	92.8%
小学4年生～6年生	2,208	2,072	93.8%
中学1年生	568	523	92.1%
中学2年生	626	579	92.5%
中学3年生	576	521	90.5%
中学1年生～3年生	1,770	1,623	91.7%

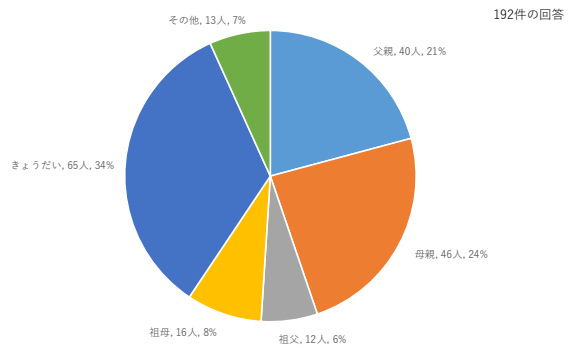




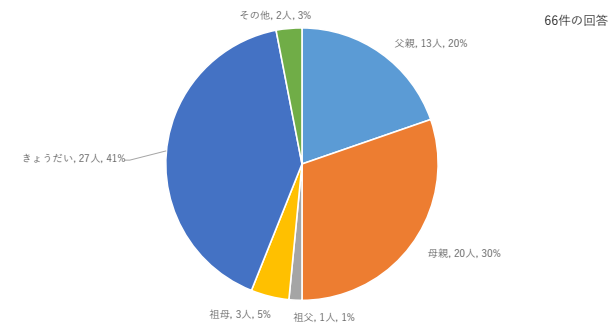




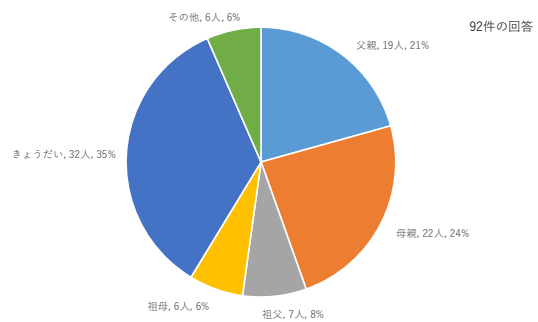
4-5 【小学6年生】 あなたが身の回りなどのお世話をしている人について、あてはまる人をいくつでも選んでください。（複数回答）



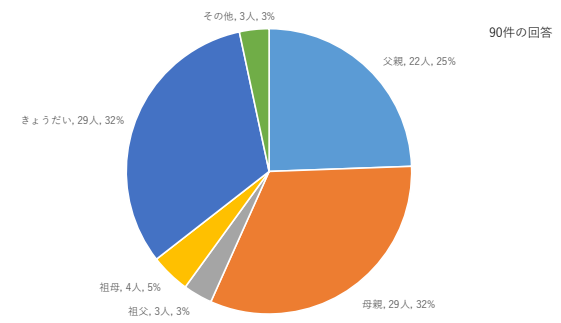
4-6 【中学1年生】 あなたが身の回りなどのお世話をしている人について、あてはまる人をいくつでも選んでください。（複数回答）

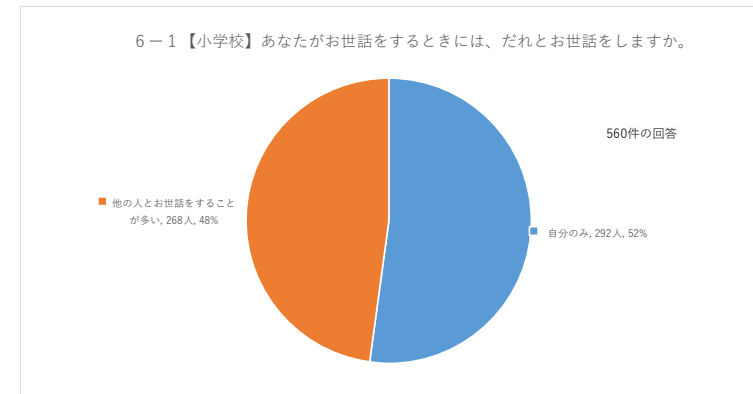
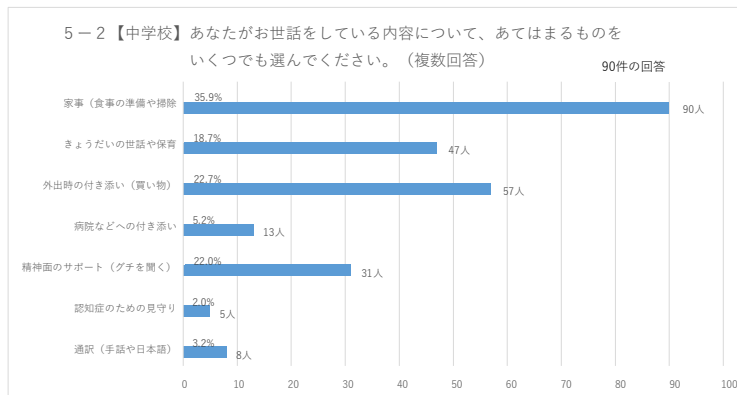
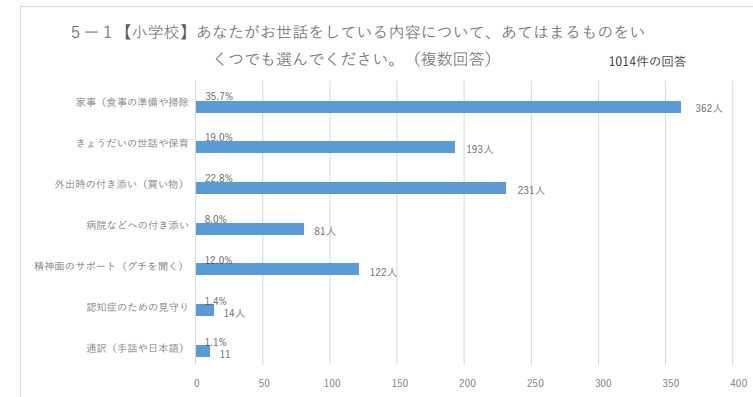
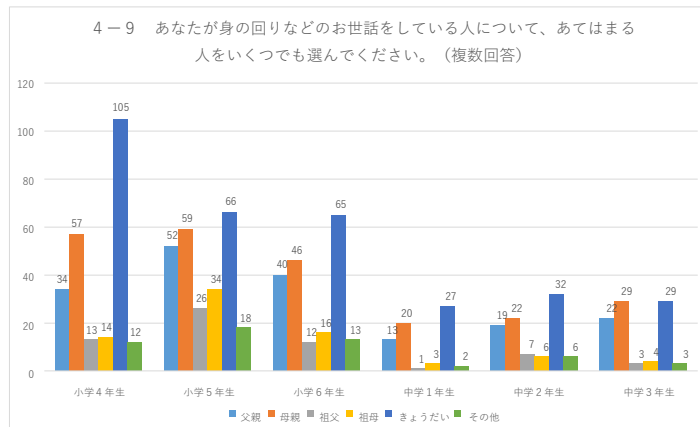


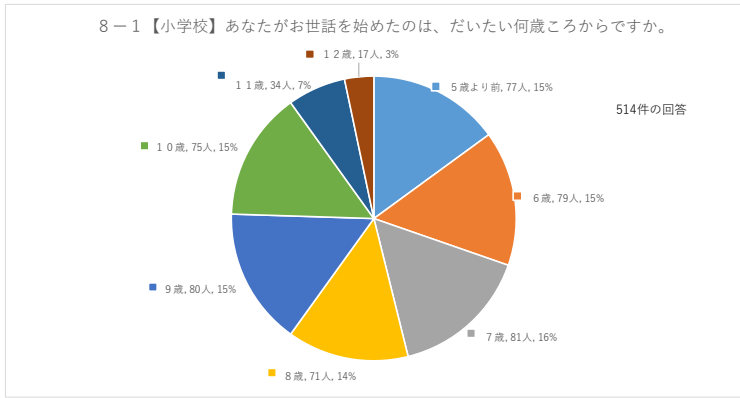
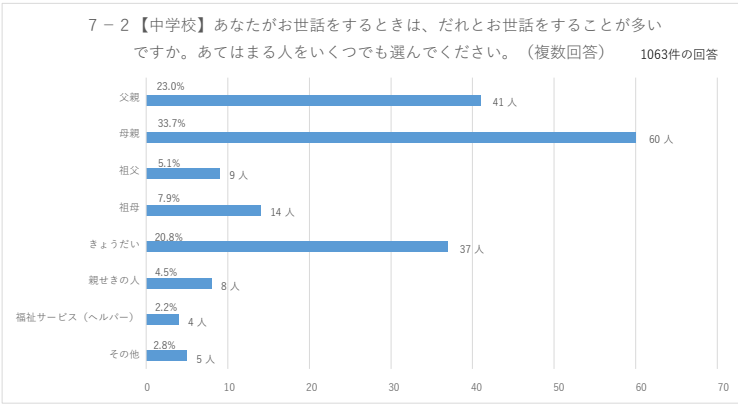
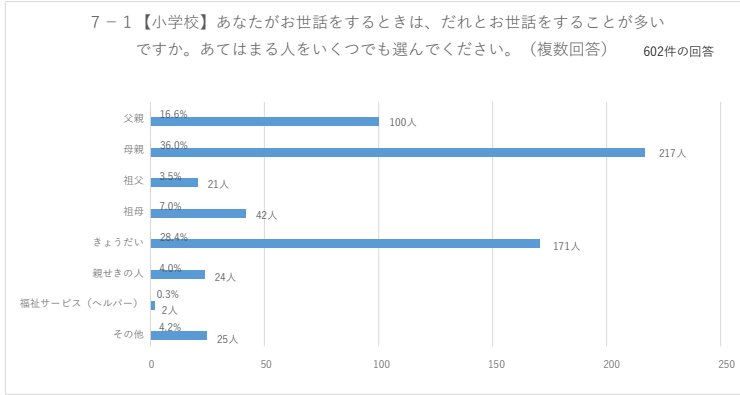
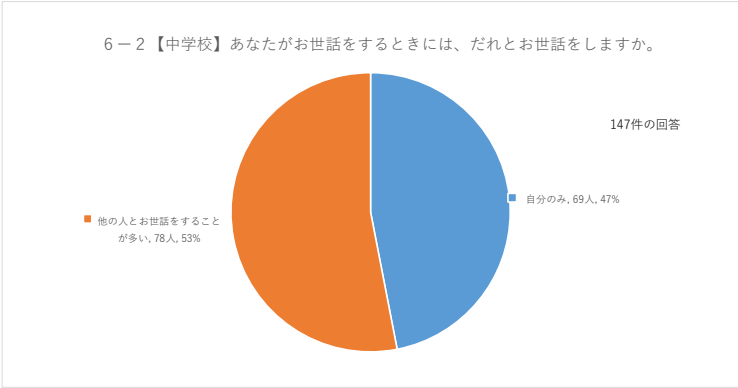
4-7 【中学2年生】 あなたが身の回りなどのお世話をしている人について、あてはまる人をいくつでも選んでください。（複数回答）

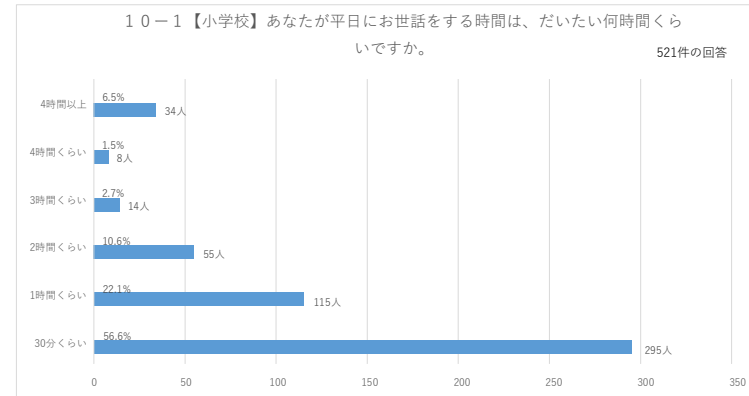
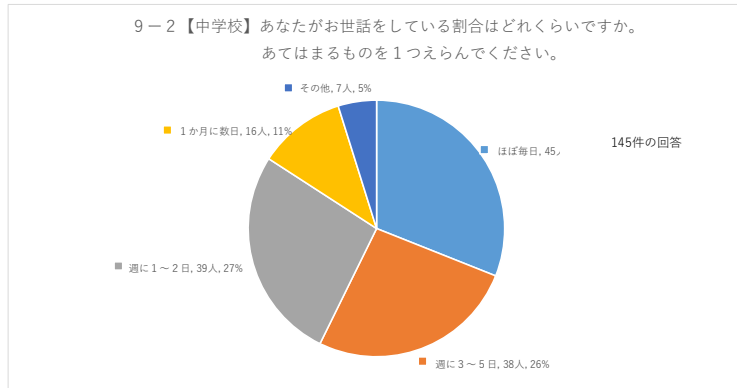
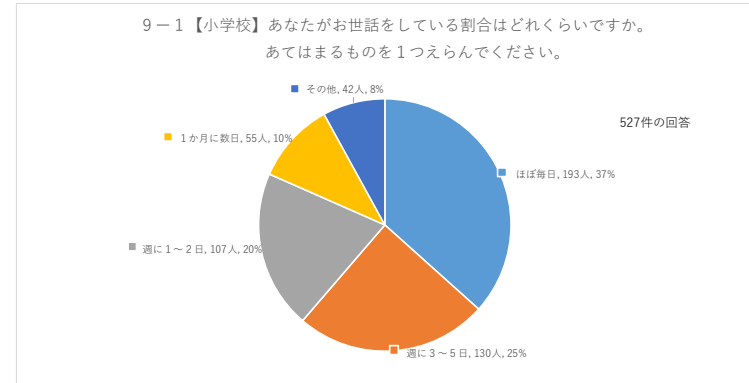
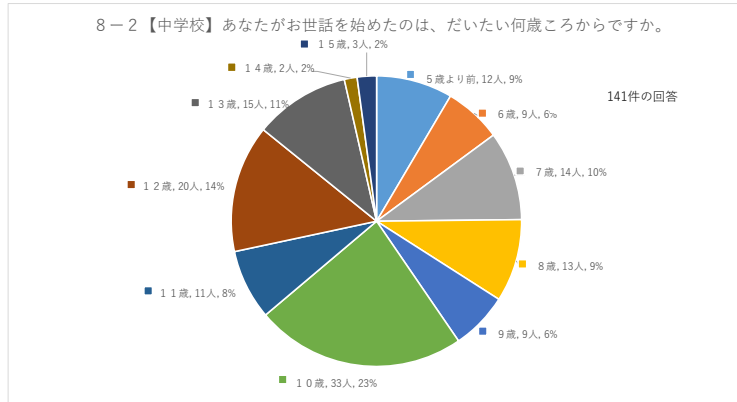


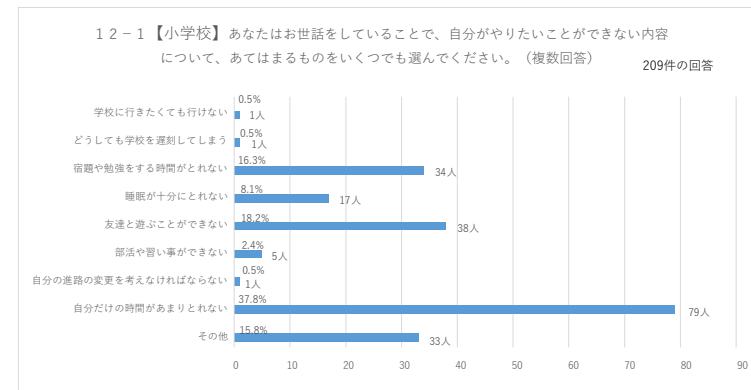
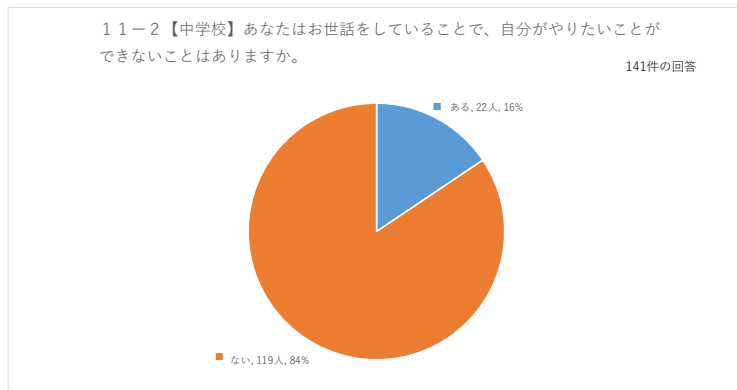
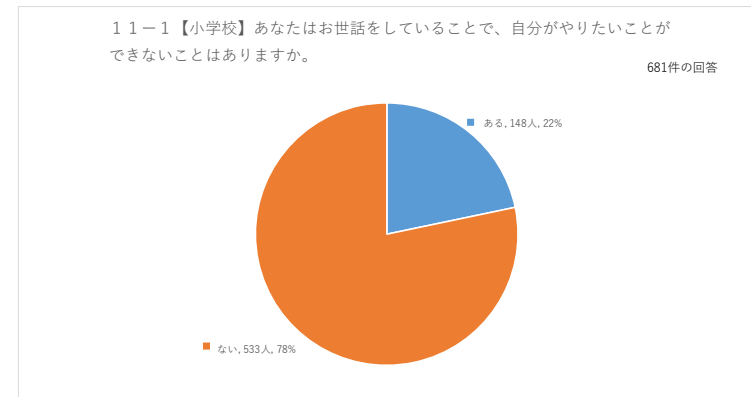
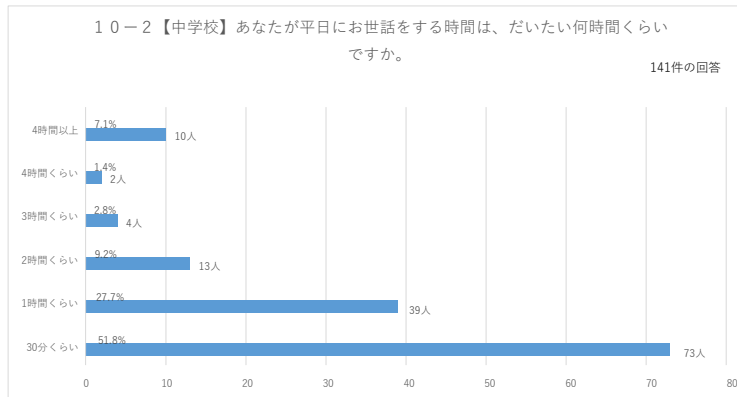
4-8 【中学3年生】 あなたが身の回りなどのお世話をしている人について、あてはまる人をいくつでも選んでください。（複数回答）

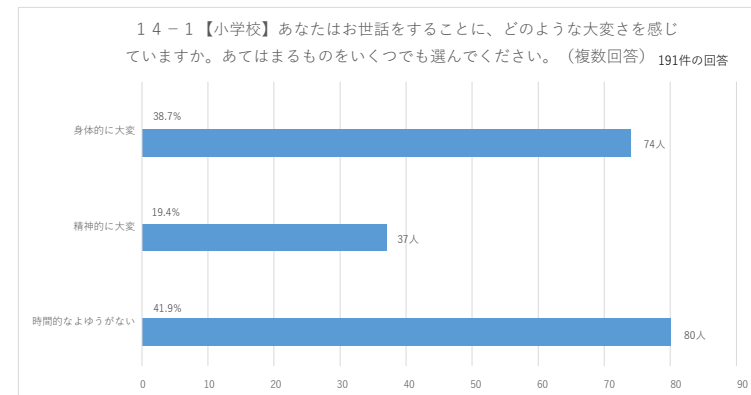
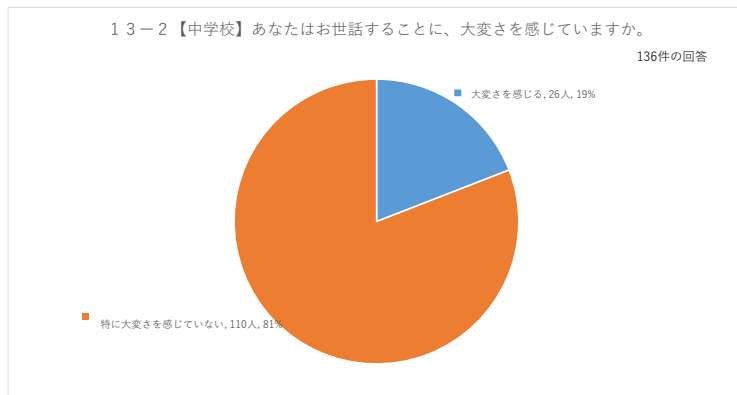
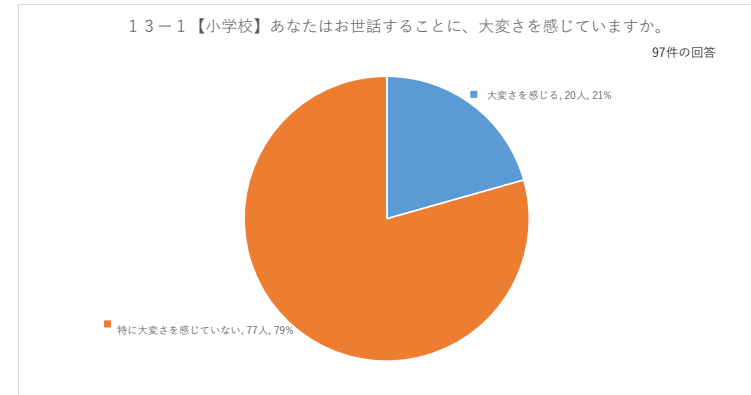
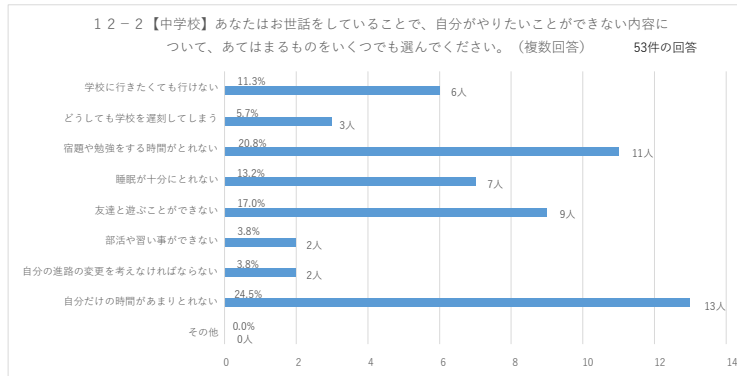


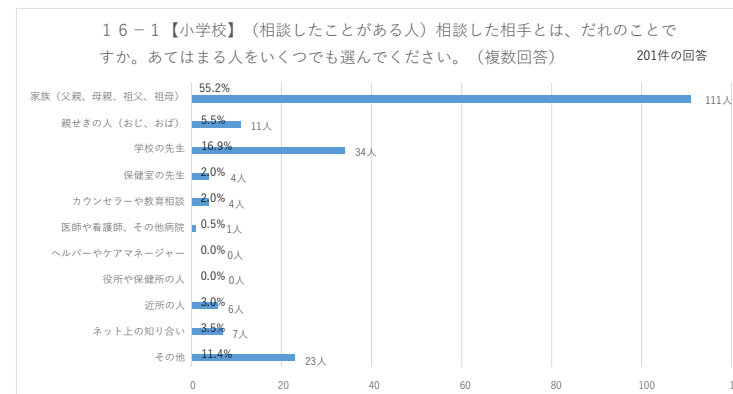
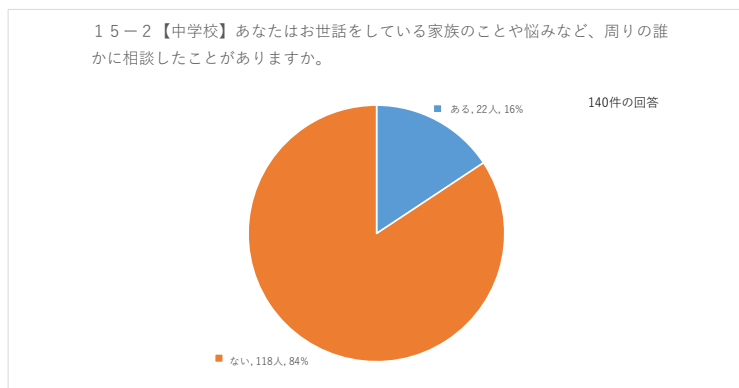
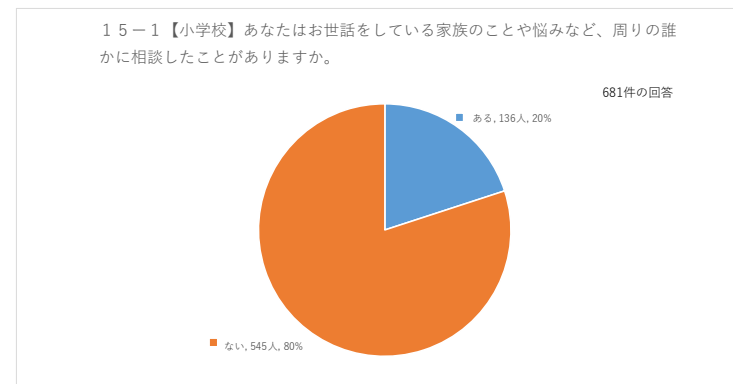
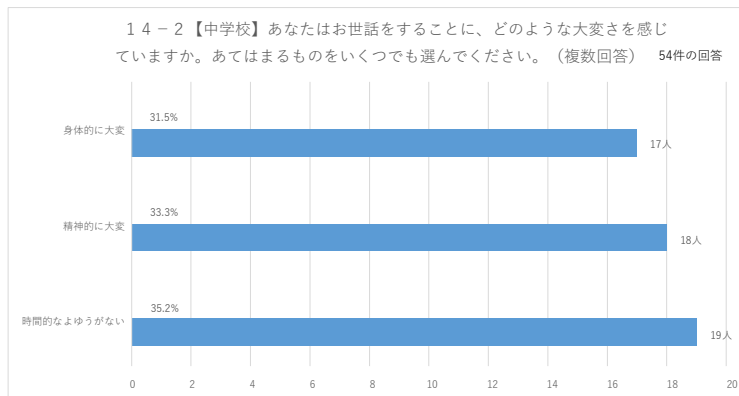


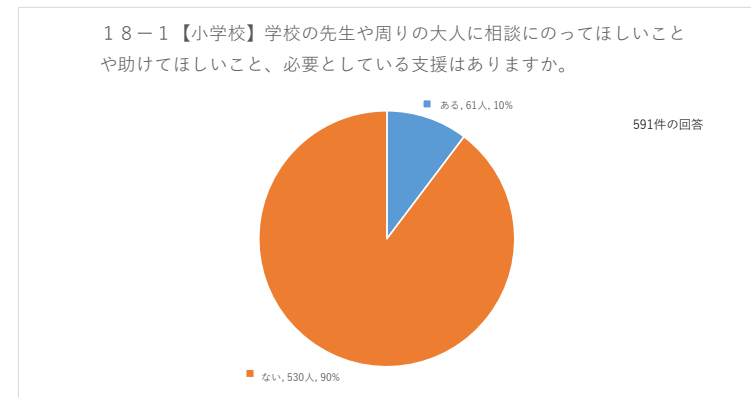
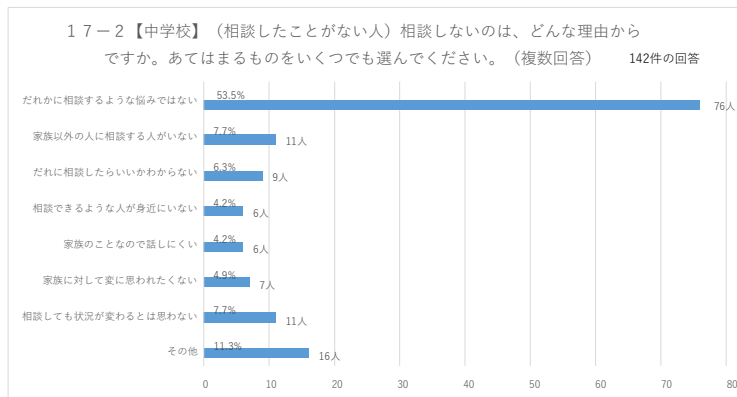
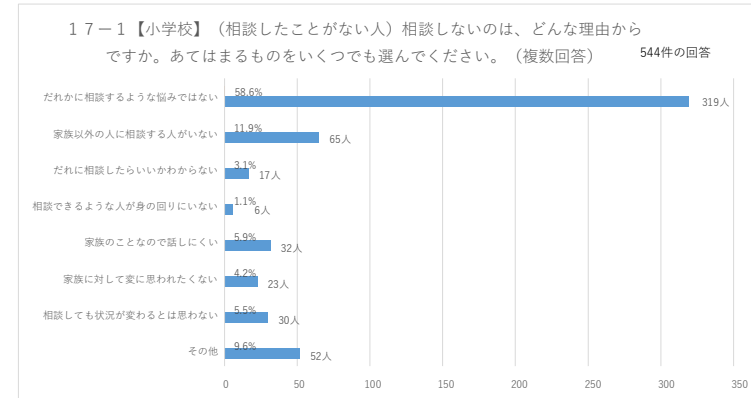
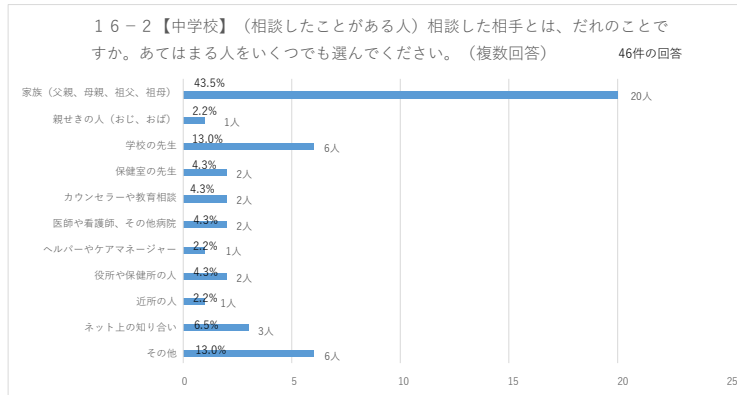


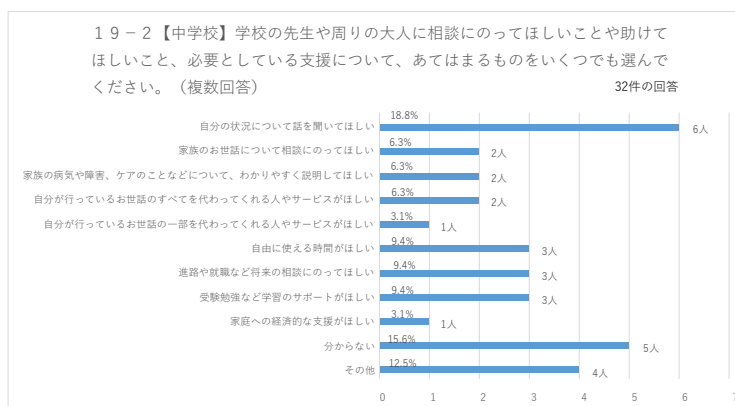
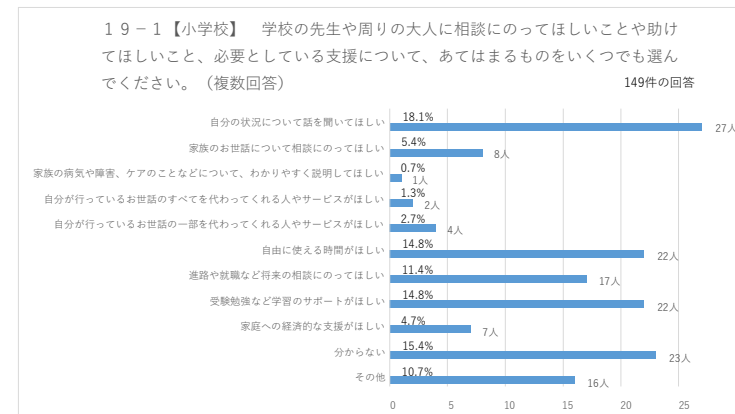
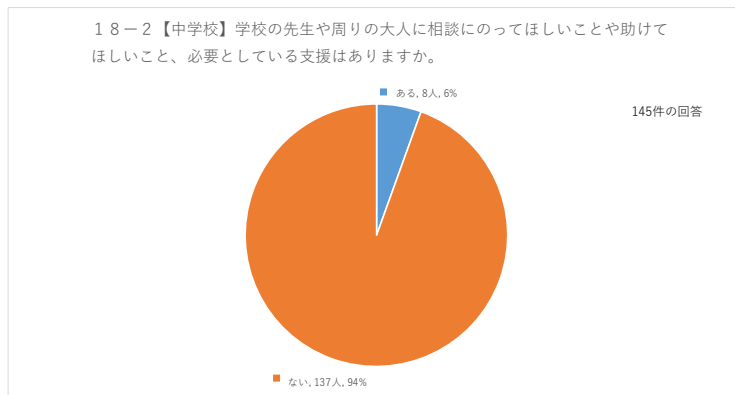












3 調査結果より（考察）

・埼玉県の実態調査では、「ヤングケアラーである（過去も含む）」の質問の回答が4.08%（令和2年7月～9月実施、県内高校2年生55,772人対象、「ケアの相手が幼い」を含むと5.34%）であった。

本市の調査ではヤングケアラーに特化した質問ではなく、あなたが身の回りのお世話をしている家族はいますか」（設問1）という質問のため、日常のお手伝い等も含んだ回答となり、割合は高くなっている。（全体14% [小学校4年生～6年生18%、中学校1年生～3年生9%]）

そのため、ヤングケアラーということでの県の調査結果との比較はできていない。

【小学生】

「お世話をしている」の理解・受け止め方により、各学年の「いる」の数値に差異が見られ、特に小学4年生は「いる」が36.45%と高い数値であるが、兄弟姉妹の面倒をみる等のお手伝い的な要素で捉えている子もいると考えられる。

【中学生】

学年が上がるにつれて「いる」の数値が高くなっている。中学3年では、単にお手伝い的な要素ではなく、具体的な関わりをされているケースも考えられる。

今回の調査で「ヤングケアラー」という言葉を初めて知った子供たちが多く、本来大人がすべき家族の世話を子供がするヤングケアラーと日常のお手伝いとの判別が難しく、混同して回答している子供が多く見受けられる。

ヤングケアラーの実態については、今後、検証していく必要がある。

・今後、子供・保護者・教職員にヤングケアラーについての正しい理解を広めていく必要がある。

・子供には、教員や相談員、支援センター、県の相談窓口など、子供が相談できる窓口がたくさんあり、信頼できる大人に相談するよう改めて伝えていく。

・支援の必要がある場合、関係機関と連携し、子供自身や家庭への支援につなげていく。